

# 令和4年度全国学力・学習状況調査における

## 北九州市立 広徳 小学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、令和4年4月19日(火)に、6年生を対象として、「教科(国語、算数、理科)に関する調査」と「児童質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思っております。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

### 1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

### 2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、算数、理科)

#### 教科に関する調査(国語、算数、理科)

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能等
- ②知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践し評価・改善する力等に関わる内容

※調査では、上記①と②を一体的に問うこととする。

- (2) 児童質問紙調査

#### 児童質問紙調査

- 学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

### 3. 教科に関する調査結果の概要

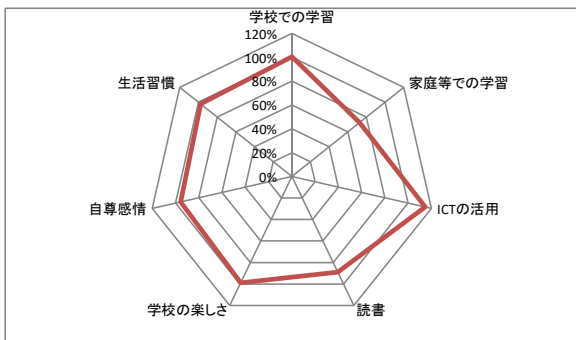
#### (1) 全国・本市の学力調査(国語、算数、理科)の結果

本年度の結果	国語		算数		理科	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	8.9	64	9.8	61	10.4	61
全国	9.2	66	10.1	63	10.8	63

#### (2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」は、全国平均を上回っていた。 「思考・判断・表現」は全国平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	学年別漢字配当表に示されている漢字を文中で正しく使う問題の正答率が全国平均を上回っていた。また、互いの立場や意図を明確にしながら計画的に話し合い、自分の考えをまとめる問題もよくできていた。	
	努力が必要な問題	人物像や物語の全体像を具体的に想像する問題や、文章全体の構成や書き表し方などに着目して、文や文章を整える問題が課題である。	
算数	全体的な傾向や特徴など	「思考・判断・表現」は、全国平均を上回っていた。 「知識・技能」は全国平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	図形を構成する要素に着目して、意味や性質、構成の仕方についての問題は概ねよくできていた。	
	努力が必要な問題	基本的な計算問題や、百分率の問題、表を用いた問題には課題がある。	
理科	全体的な傾向や特徴など	「知識・技能」、「思考・判断・表現」とともに、全国平均を下回っていた。	全国平均正答率との比較 下回っている
	よくできた問題	昆虫など生物についての問題や、実験の課題や順序についての問題は、正答率が全国平均を上回っていた。	
	努力が必要な問題	実験器具の正しい名称を答える問題など知識や技能を要する問題の正答率が全国平均を下回っていた。特に、自分の考えをもつ(記述する)問題については、課題が大きい。学習の中で、これまで以上に自分で考えるという活動を強化していく必要がある。	

### 4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
<p><b>&lt;学びの育ちについて&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達(生徒)との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることについては、全国平均を上回っていた。コロナ対策を講じながらも、話し合い活動に積極的に取り組んだ成果である。</li> <li>・家庭学習では、時間や計画性について全国平均を大きく下回っていた。</li> </ul> <p><b>&lt;心の育ちについて&gt;</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・友達と協力するのは楽しいという観点では、全国平均を上回っていた。</li> <li>・自尊感情についての自身の捉えは「低い」という結果が出た。自身の良い所に気付けるような学習を積極的に行ったり、学校行事でのがんばりを認める機会を増やしたりする必要がある。</li> </ul>

### 5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

#### ① 教科に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・国語、算数ともに朝学習の取組や広徳漢字検定など基礎基本の学力定着は続けていく。</li> <li>・算数や理科は、実生活と結び付けたり、具体物を使用したりした学習をより一層取り入れながら、興味関心とともに、算数的思考、理科的思考を高めていく必要がある。</li> </ul>
---

#### ② 家庭生活習慣等に関する取組

<ul style="list-style-type: none"> <li>・家庭学習の自分で計画を立てて勉強することができるように、ドリルアプリや自学ノートなどを今後も続けていく。</li> <li>・保護者の協力もいただきながら、児童の家庭学習の習慣を育てるために、学校と家庭が連携していく必要がある。</li> <li>・充実した学校行事や、自分の良い所を見つけ、伸ばせる学習などをさらに推進し、児童の自尊感情の高まりを上げていく取組を続けていく必要がある。</li> </ul>
--